

看護・保健部門（国際）

受賞者： みなみ ひろこ 南 裕子（75歳）

高知県立大学大学院看護学研究科 特任教授



日本看護協会会長、国際看護師協会会長の経歴を持ち、国内外の看護界を牽引している南氏は、日本にまだ看護学博士号取得の道が開かれていない1982年、カリフォルニア大学サンフランシスコ校で看護学博士号を取得。その後、聖路加看護大学に日本で初めての看護学博士課程の開設に貢献した。兵庫県立看護大学、近代姫路大学、高知県立大学の学長を経て、看護学と他の学問領域とをつなぐ役割を長年担ってきた。

兵庫県立大学学長を務めていた1995年に阪神・淡路大震災が発生した。当時、日本看護協会の現地対策本部を学内に置き、全国から看護ボランティアを募って被災者のケアに奔走した。看護にあたる地元の看護師たちは自身も被災者であることから、精神的に追い詰められる場面も目の当たりにし、支援者側のケアにも尽力した。救命救急の活動だけでなく、被災者の生活環境を整える手助けをすることが大切な役割だとして、経験に基づいた災害看護の分野を確立させた。その後、日本の災害支援および災害復興を推進する組織の必要性から仲間とともに、1998年に日本災害看護学会を設立。2008年には世界災害看護学会を立ち上げ、第一回の大会長を務めた。

看護学の博士課程および修士課程の拡充を推進するとともに、国民の健康を守るために必要な、社会と医療界の変化に対応できる専門看護師等の育成に尽力し、看護ケアの向上とイノベーションをもたらした。2005年から2009年にかけては国際看護師協会の会長を務め、世界の看護の発展と看護の質の向上に貢献した。2014年からは国際協力機構バン格拉デッシュ看護サービス人材育成に携わるなど、国際的にも重要な功績を果たしている。

推薦者： 野嶋 佐由美 高知県立大学 学長